
バカとCLANNADと召喚獣

岡崎朋也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとCLANNADと召喚獣

【Nコード】

N5089Y

【作者名】

岡崎朋也

【あらすじ】

どうも作者です僕は小説を初めて書くのでわからない所や間違えるところもあると思うので、よろしく願います。ストーリーなのですが、原作どうり行くところもあれば、原作ブレイクするところもあると思います。多分予定ではオリキャラを出すかもしれないのでよろしく願います。

一応学生なので毎日更新できるかわかりません。

プロローグ（前書き）

この作品で初めてなのでわからない所がたくさんあるのでアドバイ
スしていただけると嬉しいです。（ ）の中の言葉はキャラが思っ
て
る
こ
と
で
す。

ブローグ

俺はゆっくり歩いていた。季節は春、桜の舞い散るこの桜並木道を上ると俺の通っている学校だ。だが今は誰も登校していない。そう時間は8時30分、あと15分ほどで授業が始まってしまっただろうだが足は速めない。

朋也「はあ。」

この坂道の長さに思わずため息が出てしまった。しばらく歩いていると俺の通っている学校の制服を来ている女子生徒がいた。

???「はあ、あんばん。」

朋也「っ！」

???「この学校は好きですか？私は、とってもとっても好きです。でも何もかも変わらずにはいられないです。」

朋也（見知らぬ女生徒、俺に向けられた言葉ではなかった。多分心の中の誰かに語りかけているのだろう。）

???「楽しい事とか嬉しい事とか全部、全部変わらずにはいられないです。それでも、それでもこの場所が好きでいられますか？」

朋也「見つければいいだろ。」

???「えっ。」

そいつは隣に誰もいないはずなどと思っていたのだろう。

朋也「次の楽しい事とか嬉しい事を見つければいいだけだろ？ほら、行こうぜ。」

そう言うのと隣の女生徒がうなずいていた。

朋也（俺たちは上り始める、長い、長い坂道を。）

しばらく会話もなく、校門についた。校門の前に立っていたのは覚えのあるバカ2人とごつい筋肉教師の姿だった。その時俺が本能的にあの教師に遅刻した事がばれるといけないと思い逃げ出そうとした次の瞬間。

筋肉教師「おいこら岡崎どこに行こうとしている。」

と野太い声が響いた。

「???」「ほら鉄人、僕たち以外にも遅刻者がいたじゃないですか。」「???」「そうですよ鉄人。誰ですか新学期早々遅刻するのはお前たちぐらいだって言ったのは鉄人じゃないですか。」「

ガンツ、ゴツツ、鈍い音が2つ響いた。

鉄人「誰が鉄人だ。西村先生と呼べといつも言っているだろうが。それに遅刻が悪い事だろうが。吉井と春原」

朋也「毎日飽きずに良くやるなあ。」「

明久、春原「見てないで助けてくれよー。」「

朋也「アホがうつるからいやだ。」「

明久「そんな〜。」「

春原「あんた、めちゃくちや薄情すねえ。」「

鉄人「おいこら、その遅刻4人組これがお前らのクラスだ。」「

「???」「私は見なくてもわかります。」「

鉄人「そうは言っても規則だからな古河。」「

古河「はい。」「

岡崎朋也Fクラス

古河渚Fクラス

吉井明久Fクラス

春原陽平Fクラス

春原、明久「なんだよFクラスって。」「

朋也「文句があるならもつと勉強しとけ。」「

とみんなで喋りながら、Fクラスへ向かう。

ブローグ（後書き）

なんか中途半端な終わり方でしたね。次からは気をつけます。できればアドバイスなどをお願いします。

CLANNADキャラ召喚獣初期設定（前書き）

CLANNADキャラの召喚獣を決めました。これからよろしく
お願いします。ガンダム系等と混ぜました。これは初期設定なので
ストーリーが進むと変わります。

CLANNADキャラ召喚獣初期設定

岡崎朋也の召喚獣は観察処分者のため特別仕様です。

装備

国語 / 古典時、ほぼストライクガンダムと同じ装備です。

数学 / 物理 / 化学時、ほぼソードストライクと同じ装備です。

日本史 / 世界史 / 現代社会時、ほぼランチャーストライクと同じ装備です。

英語 / 保健体育時、ほぼエールストライクと同じ装備です。

総合科目時、ほぼフリーダムガンダムと同じ装備です。

腕輪の能力1つ目「換装」50点消費して召喚者の思いど通りに装備をソード、ランチャー、エール、フリーダムに変えることができる。2つ目は「マルチクロックオン」100点消費して召喚フィールドにいる全部の召喚獣に攻撃できる。マルチクロックオンはフリーダムの時だけ使える。

春原陽平の召喚獣は観察処分者のため特別仕様です。

装備

国語 / 古典時、ザクウォーリアと同じ装備です。

数学 / 物理 / 化学時、ザクファントムと同じ装備です。

日本史 / 世界史 / 現代社会時、グフナイトッドと同じ装備です。

英語 / 保健体育時、バビと同じ装備です。

総合科目時、ドムトルーパーと同じ装備です。

春原は400点台取れないので腕輪の能力は書きません。

古河渚

装備

毎回、だんご大家族の絵柄のついた弓と小刀と着物を装備しています。

腕輪の能力は「追尾」100点消費して撃った矢を必ず命中させます。

藤林杏

装備

毎回、ブーメランと強化金属をつけた辞書と軽鎧を装備しています。
腕輪の能力は「巨大化」 80点消費して、投げたブーメランが辞書を巨大化させます。

藤林棕

装備

毎回、タロットとランプとローブを装備しています。
腕輪の能力は「先読み」 50点消費して相手の召喚獣の動きが確実にわかります。

一ノ瀬ことみ

装備

毎回、長刀と短刀と重鎧を装備しています。
腕輪の能力は「破壊」 150点消費して、相手の武器を破壊して使えなくします。

坂上智代

装備

毎回、手にはメリケンサック足には仕込みナイフと黒い服を着ています。

腕輪の能力は「倍速」 2倍速の場合25点消費して動きを加速させます。倍速は2倍速から10倍速まであります。

伊吹風子

装備

毎回右手にはヒトデ型ナイフ左手には彫刻刀、体はヒトデの絵柄が入ったローブを身に着けています。

風子は400点取れないので書きません。

宮沢有紀寧

装備

毎回右手にはおまじないの大きな本と左手には太刀を装備しています。

宮沢は400点以上取れないので腕輪の能力は書きません。

いかがでしたか？この装備は初期仕様なので、あとから変えると思います。

CLANNADキャラ召喚獣初期設定（後書き）

観察処分者仕様のはガンダム系から引つ張ってきました。もしよかつたらアドバイスや誤字脱字などがあれば指摘していただけると嬉しいですよ

第2話（前書き）

どうも作者です。今日は学校の体育が持久走だったので疲れました。
。

さて今回はFクラスのキャラまで書く予定です。

第2話

みんなでFクラスに行く途中、Aクラスを通って行く時また明久と春原が騒ぎ出した。

春原「おい見る岡崎、Aクラスの設備、かなりいい設備だぞ。システムデスクにリクライニングシートノートパソコン支給にそれだけじゃないな。」

明久「朋也も見てみて、フリードリンクサーバーにお菓子も食べ放題だし、あれは？」

渚「あれはプラズマディスプレイですね。あれを使って授業をするんです。」

朋也「本当だ。すごいなあーだがこれが格差社会というやつだな。」
渚「本当に何度見てもAクラスはすごいところですね。」

「ん何度も？1年生の時はまだクラス分けはなかったはずだし、理由もなくほかの学年の校舎に入ることは禁止されてるはず……まさか。朋也「なあ古河もしかしてお前って留年してるのか？」」

「そういうと古河は少し残念そうな顔をして答えてくれた。」

渚「はい……私は体が弱くて1年前の振り分け試験の時も病気で休んでしまつてFクラスの生徒になつてFクラス的环境下で授業やお弁当を食べていたりするとすぐ病気になるって9ヶ月も休んでしまつて、知ってる人は全部進級してしまつて浦島太郎の気分を味わいました。」

「朋也「だからあんな独り言を、言つてたのか。部活とかやつてなかったのか？」」

渚「はい本当は、演劇部に入りたかつたんですけど私は体が弱いからちゃんと活動できそうになくて……。」
朋也「できる範囲で活動したらいいんだ。放課後部室に行つてみたらどうだ。」

「と俺が言うところとコクンとうなずいたのでそろそろ教室に行くことにし

た。

朋也「おーいその馬鹿2人おいて行くぞー。」

と言うといきなり2人が走り出して。

春原&明久「くそー上下関係なんて、大っ嫌いだ〜」

などと言ってFクラスに向かって大声で走り出した。すると古河が不思議そうな顔をして、

渚「春原さんと吉井君どうしたんでしょう？」

朋也「さあな、いつもあいつらはあんな感じだから俺にもよくわからん。さてとそろそろ俺たちも行こうぜ。」

渚「はい。」

少し小走りに行くことにした。もし担任が鉄人だったらひとたまりもない。

Fクラスにつくと馬鹿2人が息切れしていた。

朋也「おいこらその馬鹿2人、そこをどけ。」

と言って蹴り飛ばす。

明久&春原「ぐはっ。」

がらっ（扉があく音）

朋也「畳に薄っぺらい座布団に卓袱台に隙間風の入る教室にカビとホコリの舞う教室とはこれじゃ体調が悪くなっても仕方ないな。」

春原&明久「ごめんなさいちょっと遅れちゃいましたっ」

「???」「殺すぞ。」

春原「ヒイツ。」

明久「それはいくらなんでも教師だからっていいすぎじゃあ…」

朋也「おいおい、そいつは教師なんかじゃないぞ。なあ雄二。」

雄二「よう、朋也やっぱりお前もFクラスだったか。」

朋也「それはお互い様だな。お前が黒板前にいると言うことは、お前が代表か？」

雄二「ああ、相変わらず鋭いところもあるなあお前は。そしてお前が副代表だ。」

朋也「マジすか？俺そーいうの苦手なんだけど。」

雄二「まあそう言うなそんなにめんどい仕事はないから。」

春原「おい2人とも先公が来たぞ。」

先生「こんにちは私が2年Fクラスを担任することになった福原ですよろしくお願いします。ちゃんと卓袱台と座布団は支給されていますか？不満がある人は言ってください。」

明久「先生僕の座布団ほとんど綿が入ってないんですけどー」

春原「先生隙間風が寒いんですけどー」

福原「あゝえゝ我慢してください。」

バキッ（卓袱台の足が折れた音）

明久&春原「先生卓袱台の足が折れたんですけどー」

福原「我慢してください。」

明久&春原「無理だっつーの！」

福原「あはは、冗談ですよこの木工用ボンドで後で付けてください。」

「

コトツバキッ（福原がボンドを置いたので教卓が壊れた音）

福原「工具を取ってくるので皆さんは自習をしておいてください。」

先生がいなくなると明久が真っ先にしゃべりだした。

明久「流石は学力最低クラス見る限りむさい男ばかりだねー」

雄二&朋也「お前もそのうちに入ってるけどな。ほかに俺たちが知ってる奴いるぞ。」

「???」ハロハロー、ウチもFクラスよ。」

明久「そうかやっぱり島田さんはFクラスだよな。」

美波「（怒）何よウチがバカだとしても言いたいのだ。」

といってそいつは明久に関節技をキメ始めた。

「???」見えそうで見えないっ。」

その下ではムツツリーニこと土屋康太が島田のスカートの中をのぞいていた。

ムツツリーニ「見えそうで見え見え！ブシャアアアア。」

バタッ（ムツツリーニが倒れる音）

「???」相変わらずお主らは元気じゃのう。」

明久「ああつ、秀吉ゝ秀吉もFクラスなのか」。

秀吉「うむ1年間よろしく頼むぞ。」

ガラツ（ドアが開く音）

???「おくれてすいませーん。保健室に行っていたら遅くなつてしまいました。」

流石にこれには驚いたAクラス候補だった。姫路瑞希がFクラスにいたのだから。

第2話（後書き）

いかがでしたか。次の話では試験召喚戦争の話までは行きたいと思っています。よろしければアドバイスや感想などをよろしく願います。副代表というのを作りましたまあ簡単に言えば代表の次に偉い人ですね。

第3話（前書き）

どうも～作者です。なんかもうすぐ期末テストがあるみたいで～毎日
は更新できなくなるかもしれません～ですができるだけ頑張るの
で、よろしくお願いします。

さて今回は試験召喚戦争の話までは行きたいと思います。

第3話

そして姫路が入ってきた後すぐに、先生が来たのですぐみんなが静かになった。

福原「えー今日は1学期初日と言うことで、皆さんに自己紹介をしてもらいましょうか。」

と先生が言ったので、自己紹介が始まった知ってるやつ以外は聞き流していたのだが、やがて春原の番になった。

春原「春原陽平です。ニックネームは」

朋也「ヘタレと呼んでやってください。その方があいつも嬉しいがるので。」

Fクラス一同「ヘタレヘタレヘタレ。」

なんということでしょう。俺の一言で春原のあだ名はヘタレになってしまいました。

美波「島田美波です。趣味は吉井明久と春原陽平を殴ることです。」

春原&明久「やめてください。」

ムツリ「ニニニ土屋康太。趣味は盗さ。特に何も無い特技は盗ちよ。何も無い。」

俺は相変わらずだなあと苦笑いをした。などと思っていると、俺の番になっていた。

朋也「岡崎朋也だ1年間よろしく頼む。それと一応副代表になった。」

適当に言っただけに戻った。

須川「あんなカワイイ子1年生の時、見たことあったっけ？」

渚「古河渚です。好きなことは演劇ですよろしくお願いします。コホッ」

次は秀吉の番だった。何か秀吉は元気がなようだ。何かあったのだろうか？

秀吉「木下秀吉じゃよろしく頼むぞ。突然じゃがお主らの中に演劇

に興味があるものはおらぬかの？今は演劇部が廃部のピンチでもしも興味があるならワシのところまで来てくれると嬉しいのじゃ。」

今の言葉は古河にはいいチャンスじゃないか。と思ったところで、なぜかFクラスにいる姫路瑞希の番になった。

瑞希「姫路瑞希と言いますよろしくお願いします。」

須川「質問です。なんでここにいるんですか？」

ストレートに質問するな、あれじゃあ失礼だぞ。まあ、俺も聞きたかったのだが。

瑞希「私は熱が出てしまつて途中退席したから0点なんです。コホッ、コホッ」

明久が心配そうに聞いた。

明久「姫路さんまだ具合悪いの？」

少し姫路が驚いたようだった。

瑞希「吉井君？ええ、はいもうだいぶ良くなっています。」

などと話している内に、最後の奴、雄二になった。

福原「そういえば、坂本君はクラスの代表でしたね。このクラスの目標などもよろしく願います。」

雄二「Fクラス代表坂本雄二だ。皆、早速だが提案だ。このFクラスに不満はないか？」

Fクラス一同「大ありじゃー。」

Fクラス一同の魂の叫びだった。

雄二「だろ、俺も代表として問題意識を持っている。だからFクラスはAクラスに試験召喚戦争を挑もうと思う。」

第3話（後書き）

いかがでしたか。さて次はいよいよ試験召喚戦争開始ですね。それと演劇部のこともちよくちよく書いて行こうと思います。

第4話（前書き）

どうも作者です更新遅くなつてすいませんやつと期末テストが終わったので書いて行こうと思います。

第4話

Fクラス一同「勝てるわけがない。これ以上設備を落とされるのは嫌だ。姫路さんと古河さんがいれば何もいらない。」

雄二「まあ待てお前ら、俺はこのFクラスに勝てる要素があるから言っているんだ。おい康太、古河のスカートの中を覗こうとしてないでこっちに来い。」

渚「は、はわっ。」

ムツツリーニ「…っ（ブンブン）」

雄二「紹介しよう。みんなこいつが、あの有名なムツツリーニだ。」
ムツツリーニ「っ（ブンブン）」

ムツツリーニと言う名にクラスはどよめきが走った。その名は男子からは畏怖と畏敬を女子からは軽蔑を持ってあげられているが、その正体は謎であつたためどよめきが走つたのは無理もないだろう。

雄二「それに姫路や俺、木下秀吉や古河渚だっている。」

Fクラス一同「おおっ、なんかやれる気がしてきた」姫路さんと古河さんは調子が悪かつたわけで、Aクラス候補が3人もいるわけだ。

「

雄二「それに岡崎朋也と吉井明久と春原陽平だっている。」

Fクラス一同「……誰だそいつら？」

明久&春原「おいこら雄二、なんでそこで僕たちの名前があがるの？せつかく皆がやる気になつてたのに一気に落ちたじゃないか。」

朋也「なぜ俺の名前を出す必要があるんだ？」

雄二「まあそう言うな。特に朋也お前は頭が悪いわけじゃないだろ。さてみんなこいつら3人は観察処分者だ。」

Fクラス一同「え、それってバカの代名詞じゃなかったっけ。」

明久「違うよ。ちよつとお茶目な16歳につけられる愛称で。」

雄二「そうだ、バカの代名詞だ。」

明久「そこを肯定するなバカ雄二。」

雄二「だがな朋也の頭だけは悪くないんだ。本気を出せば、本気を出した俺以上の点数が取れる筈だ。」

Fクラス一同「観察処分者なのにバカじゃないってすげーこれならAクラス何てぶっ潰してやるぜー。」

朋也「おいおいあまり期待しないでくれ。俺は頭が悪いぞ。」

雄二「まずは手始めにEクラスを落とそうと思う。明久、陽平お前たちに、宣戦布告の生贄いや使者となってもらう。」

明久&春原「ねえ雄二、今生贄って言ったよね。」

朋也「いいから騙されたと思ってさっさと逝って来い。」

春原&明久「はい（泣）」

流石にこれには少しかわいそうに思えてきた。だいたい下位勢力の使者ってヒドイ目に合うんだよね。

明久&春原「騙されたよおおっ。」

雄二&朋也「やっぱりなあ。」

明久&春原「予想してたのかよ。」

雄二&朋也「ああそのくらい予想できないと（副）代表は務まらない。」

「

明久&春原「少しは悪びれるよ。」

雄二「で、お前らちゃんと宣戦布告してきたんだろうな。」

明久「うん一応明日の昼からってことになってるけど。」

朋也「よしみんなペンをとれ補充試験するぞ。」

Fクラス一同「おーっ。」

第4話（後書き）

いかがでしたか。久しぶりの更新になってしまいました。とても期末テストだった。この後持久走大会もあるし修学旅行もあるの
できついです。ですができるだけ毎日更新していくのでこれからも
よろしくお願いします。

第5話（前書き）

どうも作者です今回は演劇部のことを書こうと思います。よろしく
お願いします。設定では演劇部は今秀吉一人しかいないということ
にしています。

第5話

補充試験も終わった後、古河が秀吉のところに向かうのが見えたので、演劇のことだと思いついて行ってみた。

渚「あの、木下君ちよつといいですか？」

秀吉「うむ、構わぬがどうしたのじゃ？」

渚「えっと、私演劇部に入りたいのですがどうしたらいいでしょうか？」

秀吉「おおつ、それはまことかの。とても嬉しいのじゃ。だがの今古河が入ったとしても2人にしかならんのじゃ。」

古河「後何人必要なんですか？」

秀吉「部活をするためには、あと最低でも7人は必要なのじゃ。」

古河「そうですね、岡崎さんたちに相談してみてはいかがですか。ちようど7人くらいになると思いますけど。」

秀吉「そうじゃな、相談してみようぞ。」

朋也「なら俺が今から集めてきてやるよ。」

秀吉&渚「朋也（岡崎さん）」

いつものメンバーを集め終わった後、古河と秀吉が前に出て要件を言い始めた。

秀吉「皆、頼みがあるのじゃがいいだろうか？」

明久&春原「いいよー秀吉の頼みなら何でも聞くよ」

雄二「俺は要件しだいだな。」

ムツツリー二「……報酬しだい。」

美波「別に難しことじゃないならOKよ。」

瑞希「私も美波ちゃんと同じです。」

秀吉「ならば、単刀直入に言う演劇部に入ってくれんかの。」

明久「どういふことなの秀吉。」

秀吉「今の演劇部の部員は古河とワシだけなのじゃ。このままでは廃部になってしまうので、部員が必ず7人必要なのじゃ。ほかにお

主ら以外に頼めそうな人がおらぬでの。それにワシはお主らと一緒に演劇がしたいのじゃ。」

明久&春原「僕たちはみんなが一緒にしてくれるならいいよ。」
上の馬鹿2人は、笑って言っている。

朋也「俺はいいと思うぜ。楽しくなりそうだからな。」

雄二「まあいいだろアイツから逃げれることにも必要だからな。」

雄二はニヤツと笑みを見せながら言った。

瑞希&美波「吉井（君）が入るなら私も入る。」

この2人は明久がいればいいんだろうな。と心の中で笑う。

ムツツリーニ「……カメラも使ってもいいなら。」

こいつはカメラを使って珍しい写真（女子限定）を取るのだろうなと思った。

秀吉「皆、ありがとうなのじゃ。ではワシは部長として顧問の先生の報告をしてるので、先に帰っていてほしいのじゃ。」

朋也「そーいや試験召喚戦争は朝からなのか？それとも昼からなのか？」

春原「たしか明日の13時30分から開戦するって言うてきたよ。」

明久「明日は試験召喚戦争だから昼ご飯は少し豪華にソルトウォーターでも食べようかな。」

雄二「てかお前の主食って水と塩だけだろ。」

明久「失礼な。ちゃんと砂糖だって食べているよ。」

朋也「明久それは食べるではなくなめるだと思っぞ。」

瑞希「え？吉井君って昼ご飯食べない人なんですか？」

明久「いや親からの仕送りはもらってるんだけど…ゲーム等に使いすぎて、お金がないんだ。」

瑞希「では明日は私がお弁当作ってきてあげましょうか？」

明久「ありがとう姫路さん。」

渚「私も家がパン屋さんなのでよかったら持っていきますね。」

明久「2人とも本当にありがとう。」

この時俺が思ったことはとても嫌な予感がするということだけだっ

た。

第5話（後書き）

いかがでしたか。次こそは試験召喚戦争開始のところまでは行きたいと思うのでよろしく願います。感想やアドバイス等もよろしければ願います。

6 話目（前書き）

すいません。ちょっと用事があつて更新できませんでした。これからはお願いします。さて今回はあるキャラクターを出そうと思います。

6 話 目

時間は昼休み場所は屋上、その時そこに広がっている光景は地獄絵図だった。俺はジャンケンで負けて、みんなの分の飲み物を買ってきていたので巻き込まれなかった。そこに広がっている光景は泡を吹いて倒れているのは明久、春原、ムツツリー二、その光景を見て震え上がるのは雄二、秀吉、島田、俺状況がよくわからずオドオドしているのは姫路、古河だった。

朋也「おい雄二、なんでそこで3人仲良くたばっているのがいるのかがどうしてだ？」

俺は震える声で聞いてみる。

雄二「ああそうだな、どうしてこうなったかと言うと、明久とムツツリー二が姫路の弁当を食べた後ボタンと2人がぶつ倒れて春原は古河が持つてきたあのレインボーパンと言うやつが原因のようだ。」と雄二が指をさした姫路の弁当を見ると普通なのでよくわからなかったで聞いてみた。

朋也「おい、姫路その弁当に何か特別なものを入れたか？」

瑞希「あまり変わったものは入れてないですよ。隠し味に塩酸と硫酸とかを入れましたけど。」

おいおいなんで食べ物を作るのに化学薬品が入っているんだしかも塩酸+硫酸〓王水だったような気がするのは気のせいかな？かなりびつくりしたしこれ以上聞くのは心臓に悪いので古河の手にある虹色に光る謎のパンについて聞いてみることにした。」

朋也「おいなんでそのパンは虹色に光っているんだ？しかもそれは誰が作ったんだ？」

渚「私もなぜ虹色に光るのかわからないのですが作ったのはお母さんです。お母さんは普通の料理はおいしいのにパンだけはうまく作れないそうです。まあこれはお父さんが入れた失敗作のパンです。お父さんのパンは美味しいですよ。」

そう言われたので普通のパンをちよつと齧ってみると、とてもうまかったので全部食べてしまった。

雄二「おい朋也大丈夫なのか？」

朋也「おう、とてもうまいぞ4人とも食べてみる。」

俺はそう言つてそれぞれにちぎつて渡した。そして4人が恐る恐る食けるとみんなの表情がとても明るくなった。

雄二「うめえ古河これ本当にお前の父親が作ったのか？」

渚「はい、お母さんのは兎も角、お父さんのはとてもおいしいって評判なんです。」

朋也「そろそろ作戦会議をしようぜ。」

雄二「そうだな朋也その馬鹿どもを起こしてくれ。」

朋也「わかつたおい起きろムツツリーニ、春原、明久。」

ムツツリーニには言葉だけで後の馬鹿2人は蹴り起こした。

ムツツリーニ「臨死体験をしました。」

明久&春原「いてて、何も蹴り起こさなくても。」

雄二「ブリーフィングを始めるぞ。まず、前線は明久と春原に任せる。そしてムツツリーニと秀吉と島田は中堅に回ってくれ。そして最後に朋也と古河と姫路はEクラス奇襲を仕掛けてくれ後ろから回り込めば行けるだろう。異端審問会メンバーは前線と本陣援護に向かわせるこれでいいか？」

皆「了解した。」

雄二「開戦だ。皆気合い入れていけ。」

朋也「んじゃ行くぞ姫路、古河。」

瑞希&渚「はい。」

しばらく進んでいくと、手に木彫りの星？を持っているEクラスの生徒に出会ってしまった。

???「止まってください。Eクラス伊吹風子は岡崎さんに試験召喚勝負を申し込みます。」

6 話目（後書き）

いかがでしたか、次は戦争の終わりまで行けるといいなーと思います。これからもアドバイスや感想などがあればよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5089y/>

バカとCLANNADと召喚獣

2011年11月30日17時50分発行